



目次

- 副会長あいさつ 1
- 県教頭会ブロック大会に向けて 2～3
- 全公教札幌大会参加報告 4
- 特集「働き方改革」 5
- 郡市教頭会ネットワーク 6～7
- 新入会員の声 8～9
- 随想 10



新しい時代に向けて、 私たちにできること

新潟県小中学校教頭会

副会長 **小島 隆宏**

(上越市立春日小学校)

今年、平成30年。すでに御承知のとおり、来年の今頃は新しい年号に変わっています。日々の教育活動に取り組む中で、気が付くと平成時代が過ぎてしまっていたと実感する方が多いのではないのでしょうか。平成の30年の間に私たちを取り巻く様々なことが変化をしてきました。30年前、私が教職に就いた頃には携帯電話を持つ人は、ほとんどいませんでした。総務省の報告によると、今年3月末時点での携帯電話契約数は1億7千9万件を超えるそうです。学校にはパソコンは一台もありませんでした。それが、今では授業中に一人一台ずつのタブレット型パソコンが当たり前のように使われています。箱形だったテレビは、どんどん薄くなり、壁に掛けたり、わずかに数ミリのパネルのようになりました。デジタル放送によって、昔では考えられないほど美しい映像が見られるようになっていきます。

これから描かれている未来社会は、内閣府が発表した第5期科学技術基本計画で提唱されたSociety5.0にあるように「超スマート社会」と言われています。これまで以上に科学技術の進歩によって社会の有り様が変わり、テクノロジーの発達やグローバル化により、人々が求める価値や常識も多様化していくことでしょう。

さて、話は変わりますが、「学校における働き方改革」の取組状況、成果はいかがでしょうか。7月に全公教研究部長会に部長代理として出席させていただきました。その際に、妹尾昌俊さん(学校マネジメントコンサルタント、文部科学省学校業務改善アドバイザー)からお話をお聞きする機会がありました。「本気で進める働き方改革と教職員の学び」と題しての講話でした。2時間の講話時間でしたがあっという間に過ぎてしまいました。お話の中からいくつかを紹介します。

学校における働き方改革の意味をしっかりと考えてほしい。一番の目的は、教師の命を守るためであるということ。緊急性が非常に高いことを認識して、

次の2つの側面からプロジェクトを進める必要がある。

- 1 教師の健康を守るためのプロジェクト
- 2 教師の自己研鑽充実のためのプロジェクト

もともと教職は魅力のある仕事であり、『ありがとう』と言われる仕事である。しかし、やりがいがだけでは、生きてはいけない仕事でもある。

出口治明さん(ライフネット生命保険株式会社創業者 現立命館アジア太平洋大学学長)曰く、人間は『①から学ぶ、②から学ぶ、③から学ぶ』以外に学ぶことのできない動物である。長時間労働は、その3つから学ぶ時間を奪うことにもなる。教師にとって自己研鑽の時間は、実は非常に大切な時間である。(①……本 ②……旅 ③……人)

学校現場で働き方改革が進むためには、管理職のがんばりが必要である。管理職の決断力が必要とも言える。(その決断を支えるデータとロジックも必要だが)

- 1 なぜ働き方改革が必要なのか、教職員に腹落ちさせること
- 2 業務改善に向けたアイデアを出す場をつくること(大事なことは管理職が決める)
- 3 学校のビジョン、重点課題から自校の教育活動の優先順位を付けて行動に移すこと
- 4 教師の学び(授業力と学級経営力)を高めるためのコミュニティや仕掛けを作ること

テクノロジーの革新や人々が求める価値や常識の多様化が益々進んでいる社会ですが、学校教育において、人が人を育てることの魅力は変わることはありません。教員一人一人が自分自身の学びを大事にしながら、全教職員で業務改善について議論を進め、実効性のある取組を進めていきましょう。

県教頭会ブロック大会に向けて



上越ブロック研究会実行委員長
大塚 均
(糸魚川市立青海小学校)

上越ブロック研究会は、糸魚川市教頭会が主管し、青海総合文化会館「きらら青海」を会場に開催します。8月1日(水)には、指導者と提言者、支援者の皆様による打合せ会を行いました。

各分科会の課題と提言者、指導者は、以下のとおりです。

【第1分科会】教頭の職務に関する課題(中学校)

「小規模化の影響に直面する学校における教頭の役割—やりがいと組織運営改革の両立を目指して—」

提言者：保坂 修(上越市立三和中学校)

指導者：松縄 隆之 様

(糸魚川市立糸魚川東中学校長)

【第2分科会】教育課程に関する課題(小学校)

「小中連携による『聞く』、『話す』を視点とした授業改善とその取組」

提言者：浅野 一清(妙高市立新井北小学校)

指導者：西條 敏一 様(糸魚川市立磯部小学校長)

【第3分科会】教育行財政に関する課題

「学校と地域の効果的な連携・協働のための教頭の役割～事業助成を活用した西山中学校区での取組を通して～」

提言者：高橋 雅史(柏崎市立二田小学校)

指導者：富永 浩文 様(糸魚川市立木浦小学校長)

今大会では、3分科会ともに課題解決に向けた教頭の関わりについて各校、各中学校区での取組について貴重な提言がなされます。提言内容や課題の在処は異なっても、学校職員や地域へどのように働き掛け、課題解決に向かっていったらよいかという、教頭の悩みは同じです。分科会での活発な意見交換が、必ずや解決の糸口になることと思います。

参加された皆様が、他校に学んだ成果を各校で生かされ、学校、家庭、地域がWin-Winの関係でますます強く結ばれることを願っております。

当日は、皆様の主体的な参加をお願いいたします。



十日町・中魚沼郡小・中教頭会副会長
矢嶋 義宏
(十日町市立千手小学校)

第11回中越ブロック研究会を、11月2日(金)に開催いたします。研究主題を「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育—主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり—」と設定しています。これは、平成29年度からの2年次研究として位置付けています。昨年度の知見を生かし、よりステップアップした研究会となるよう準備を進めているところです。

私たちがこの研究会に向けて取り組み始めたのは、平成28年度の10月からでした。決して順風満帆な取組ではありませんでしたが、約2年間にわたる準備期間の中で、私たちらしさが随所にある研究会を開催することができそうです。

私たちの教頭会は、会員が様々な地域から集まっているという特徴があります。十日町・中魚の地域に生活根拠地がある教頭は、全体の三分の一程度であり、長岡や上越、魚沼などの他地域の出身者が多くいます。また、約四分の三の教頭が、教頭1校目の勤務であり、年齢も比較的若いです。このことは、様々な地域の「いいとこ取り」をしながら、これまでの慣例にとらわれない柔軟な研究会の運営を可能にすることを意味します。

特に「働き方改革」が進む中で、この研究会の運営では「精選」が大事な視点となりました。様々な準備内容について議論を重ねていく中で、何が大事なのかという本質を見極めていくということが常に突きつけられました。それはある意味過酷な作業でしたが、その過程で私たちは、研究会の開催に対する思いと教頭会としての団結力を強くすることができたように思います。

今年度、十日町・中魚地域では3年に1度の「大地の芸術祭」が開催され、多くの観光客が訪れました。研究会当日にも、いくつかの作品は見学できるかと思います。研修とともに、十日町・中魚の地域性も楽しんでいただけたらと思います。

県教頭会ブロック大会に向けて



下越Aブロック研究大会実行委員長

渡 邊 勝
(新潟市立石山中学校)

今大会は、新潟市中学校教頭会が主管を務めます。よろしくお願ひします。8月8日(水)には、指導者と発表者の皆様から、大会会場の新潟ユニゾンプラザにお集まりいただき、事前検討会を行いました。各分科会の概要は、次のとおりです。

【第1分科会】教職員の専門性に関する課題

「中学校区で進める教職員の資質向上に向けた取組」
発表者：羽田 雄偉 (新潟市立亀田小学校)

指導者：山田 哲哉 様

(新潟市教育委員会 学校支援課 課長補佐)

協議題：①学校間連携・校種間連携を通して、教職員の資質向上を図っていくために教頭として何を行っていくか。②教職員の育成指標を教頭として、どう活かしていくか。

【第2分科会】組織・運営に関する課題

「教員の参画意識を高め、校内外の協働体制を築く教頭のかかわり」

発表者：平野 徹 (佐渡市立真野小学校)

指導者：森 和人 様

(下越教育事務所 学校支援第2課 指導主事)

協議題：①多様な職員に対して、どうフィードバックしたらよいか。②職員の思いを融合させ、チーム力を高めるためにはどうしたらよいか。

【第3分科会】子どもの発達に関する課題

「郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進をめざして」
～課題解決型職場体験を通したキャリア教育の推進と教頭のかかわり～

発表者：本間 祐一 (佐渡市立畑野中学校)

指導者：本多 アヤ子 様

(佐渡市教育委員会 学校教育課 教育指導主事)

協議題：①キャリア教育を推進する中で、教頭として教科横断的な教育課程をどのように編成したらよいか。②「課題解決型職場体験学習」を維持可能な取組とするために、教頭として関係機関とどのように連携を図ったらよいか。



**五泉市で
お待ちしております!**

下越Bブロック研究大会実行委員長

山 田 耕 世
(五泉市立五泉小学校)

五泉市は、「その昔、5つの泉が湧き出していた」等、様々な説が言い伝えられていますが、その名の通り豊かな水に育まれた街です。また、戦後めざましい発展をとげたニット工業や、里芋等の特産物は、全国的にも有名です。さらに、五泉市唯一の温泉地「咲花温泉」は、阿賀野川沿いにあり、豊富な湯量と透明度の高い温泉質で人気を博しており、年間を通して大勢の方から利用されています。

ここ五泉市で、第54回新潟県小中学校教頭会研究大会、第11回下越Bブロック研究大会五泉大会を開催できますことは、私たち会員にとって大きな喜びです。

五泉大会では、第11期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み将来を拓く学校教育」のもと、「組織・運営に関する課題(中学校)」「子どもの発達に関する課題(小学校)」「PTA及び地域社会に関する課題」の3分科会を設定しています。各分科会では、胎内市小中学校教頭会、村上市岩船郡小中学校教頭会、東蒲原郡小中学校教頭会の3教頭会よりご提案いただき、協議を進めて参ります。

学校には日々様々な問題が生じます。生じる問題の種類も複雑化・多様化しています。これらの問題に対して、迅速かつ適切に対応する必要があります。また、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な資質・能力を子どもたち一人一人に確実に育成することが強く求められています。

これらのニーズをクリアしていくためには、学校と家庭、地域、関係機関等が今まで以上につながり、子どもたちの将来を見据えて、同じ目標に向かって努めていくことが必要不可欠です。五泉大会が、教頭として「今、何ができるか」「今、何をしなければならないか」を共に考える機会となればと願っております。

11月2日(金)、人と自然が織りなす五泉市で、熱く語り合ひましょう。お待ちしております!

全公教札幌大会参加報告



魅力ある 「ナンバー2」の役割

浅井 弘行
(見附市立今町小学校)

全国から3,000余名の教頭が結集した札幌大会は、大変有意義な3日間でした。シンポジウム、分科会、記念講演から、ある共通の強いメッセージを感じました。

1 目標を明確にする

シンポジストの十勝バス社長野村氏は、会社を立て直すために、自らの本気度を示し、目標を伝え続け、社員の自発性を引き出した経験が話されました。また、オリンピック金メダリスト阿部氏は、目標や夢を公言し、切磋琢磨することがチームとして重要であることを話されました。さらに、文部科学省教科調査官安部氏は、学級・学校づくりのために、子どもたちの主体性を高める目標設定の重要性が話されていました。

2 目的とゴールを明確にする

参加分科会「組織・運営に関する課題」では、コミュニティ・スクールや地域連携の取組における教頭の役割について活発な意見交換が行われました。「社会に開かれた教育課程編成」のために、参加者全員が目的とゴールを共有することが重要であること、それは「働き方改革」にも通じることを確認しました。研究キーワード「関与・継続・協働」を重視しながら、「チーム学校」を目指すための教頭の重要性を改めて感じました。

3 ナンバー2の役割

最も楽しみにしていた記念講演では、元日本ハムHC白井一幸氏が日本一を目指すチーム作りの極意が話されました。「人は目指す所にしか行けない」一組織に携わる全ての人間が目標を共有し努力の方向性を定めること、役割と責任を果たすこと、関わり続けることが「チームワーク」につながると説かれました。そして、努力し続ける人に「運」が必ずついてくることも力説されました。

情熱を全面に押し出した熱い講演に、ナンバー2の魅力を確認した北の大地での研究会でした。



涼しいはずの北海道は、 熱気であつかった!

石塚 繁
(阿賀野市立神山小学校)

全国各地から約3,000人の副校長・教頭が北海道札幌に集まり、8月1日から3日間に渡り、全国公立学校教頭会研究大会札幌大会が開催された。

1日目のシンポジウムでは、東京大学大学院の勝野正章氏がコーディネーターとなり、3名のシンポジストの意見交流が行われた。

十勝バス社長の野村文吾氏は、経営難から復活した理由として、先代からの恩送(おんおくり)があり、「自信・信念・誇り」をもつ大切さを主張していた。

スキーノルディック複合リレハンメル五輪金メダリストの阿部雅司氏は、選手時代の経験から「失敗から学ぶことがある」と主張し、プラス思考であることが、よい結果につながると述べていた。

文部科学省教科調査官の安部恭子氏は、学校現場での経験や学校視察から、参画意識を高め、自治的能力を育む「特別活動」、自分らしい生き方の実現を図る「キャリア教育」、相手の立場を考える「異学年集団交流」を大切にしてほしいと話していた。

2日目は、「教育課程に関する課題」の分科会に参加した。グループ毎の協議で、各学校独自の取組の他に、福島県、兵庫県からの参加者は、自然災害時の学校と教頭の役割について体験をもとに語り、地域と連携した防災教育の必要性を訴えていた。

3日目は、野球評論家の白井一幸氏(元日本ハムコーチ)の記念講演が行われた。当時、日本一弱いと言われていた日本ハムと、世界一強いニューヨークヤンキースの違いをコーチの視点から語られた。何が違うか。それはそのチームに関わるすべての人の意識が違うのだそう。強いチームは、共通の目標を持っている。共通の目標が大きな成果になる。学校も同様である。また、選手として大切なことは「実力」「チームワーク」「運」であり、門外不出の「運」をよくする方法についても教えていただいた。

3日間、参加者の熱気で、今年の北海道はあつかった。そのあつさに私は大きな刺激を受けた。

特集 働き方改革

「選択と集中」の考え方でマネジメント



佐藤 智 昭
(田上町立羽生田小学校)

現在、学校を取り巻く環境が複雑化・多様化し、求められる役割が拡大する中、教職員の長時間勤務の解消が喫緊の課題となっている。そして、文科省が示した「学校における働き方改革に関する緊急対策」では、管理職のマネジメントを通じた取組が求められている現状にある。

当校においては、職員一人一人に適正な勤務時間の管理や業務の効率化・精選について共通理解を図り、「選択と集中」の考え方で、組織的に協働しながら「働き方改革」の取組を進めている。

(1) 勤務時間管理、適正な勤務時間管理

①タイムカード形式の導入

職員室入口付近のメインパソコンの出退校簿をクリックし、出退校時刻を保存する形式を取り入れた。個々の記録が一覧表や推移表に反映されたものを確認し、職員の分掌業務の時期的な重なり具合を確認したり、業務の分散化を意識したりすることに役立っている。また、出退校簿の記録をもとに職員にも声をかけやすくなった。

勤務時間が具体的に表示されることで、視覚的に確認でき、職員の勤務時間管理に対するタイムマネジメントへの意識改革が図られている。

今後も、教職員評価の面談や支援の際に、客観的な記録を活用していく必要があると感じている。

②諸会議の精選

週2回の職員打合せ会を週1回に削減した。日常的に情報共有するために、情報教育主任と連携して職員のパソコンのネットワーク上に掲示板システムを導入した。連絡事項や子どもへの指導事項なども報告・連絡できるようにしている。その分、放課後に教材研究や子どもと向き合う時間の確保を図っている。

③夏季休業中の閉庁日の設定

夏季休暇、年次有給休暇の取得促進につながった。

(2) 学校経営の方針に関して

・原点と要点に絞る

教育目標設定時の願いを職員に周知し、学校課題を精選した。全校体制で課題解決に向けた方向性を明確にした上で、連携して取り組んでいる。(教育は響育、共育、協育、郷育、今日行く)

(3) 活動計画・組織運営の見直し

①生活科、総合的な学習の時間における単元計画を一覧表に省略

地域連携担当教員を中心に活動内容や地域の関係者を写真付きで作成した。その結果、活動が一目で分かり、アレンジを加えやすくなった。職員の業務の能率化につながっている。

②校務分掌の複数担当

業務内容について担当者同士で検討し、全体提案を行っている。協働して計画を立てることは、職員の多忙感や負担感の減少につながっている。

③ベテランと若手のコンビ

役割を明確にして協働・補完しながらそれぞれの持ち味を生かした「チーム学校」体制を進めている。その結果、生徒指導上の問題への対応が早急にできるようになったり、職員のモチベーションが高まり、活性化につながったりしている。

④学校評価と連動した業務改善の点検・評価

評価項目に業務改善や職員の働き方に関する内容を位置付けた。継続的に取り組み、働き方に対する職員の意識改革を進めたいと考えている。

(4) 一体感の創出

・明るい職員室づくり

日頃から職員室の中で職員にねぎらいの声をかけながら、お互いが助け合い、笑顔で過ごせる雰囲気となるように努めている。

学校の働き方改革は、教育の成果をさらに生み出し、高めるためでもあることを心に留め、マネジメントを推進していきたい。

都市教頭会ネットワーク



上越市教頭会の ネットワーク

上越市教頭会
会長 石田 永
(上越市立豊原小学校)

上越市教頭会は、小学校51校（上教大附属小含む）、中学校24校（直江津中等、上教大附属中含む）の75人の教頭で組織されています。全体での活動は、総会と全体研修会の2回に限られますが、10か校程度で構成される8つのブロックに分かれて、それぞれの地域性を生かした研修や事務職員との合同研修などを行っています。

自校の属する第8ブロック教頭会では、夏季休業中に、中郷中学校区でまちづくり振興会の理事長、学校運営協議会委員として、地域の活性化と学校教育を正に結び付けている地域のキーパーソンから社会に開かれた教育課程の在り方を学びました。その後はもちろん、全員参加の懇親会で連携を深めました。

上越市では、「ふるさと上越を愛し、学ぶ力、豊かな心、健やかな体をもって、自立と共生ができる子どもを育てる。」を目標に、学校間、家庭、地域と連携した教育を推進しています。そのために、全小中学校がコミュニティ・スクールとして、学校運営協議会制度を導入し、また、ほとんどの中学校区で小中一貫教育を実施しています。小中合同でコミュニティ・スクールとしているところもあります。上越市の教頭は、学校間、学校と地域の結節点として日々、力を発揮しています。教頭間の連携・情報交換の促進が、コミュニティ・スクールや小中一貫教育を更に充実させる鍵の一つともいえます。

こうして、広い市域に多人数が散らばっている教頭会ですが、校務支援システムを介して瞬時に情報を共有することができます。例えば、研修会の案内も、システムの回覧板にデータを貼付すれば配付完了。参加申込みも、コメント欄に「研修会〇、懇親会〇です」と書き込むだけです。電話やパソコンの向こうに何でも教えてくれる仲間がいます。中学校区、ブロック、市といろいろな大きさのネットワークを使って、上越市の子どもたちや教職員のために力を尽くす教頭会でありたいと思っています。



「学び」のある教頭会

燕市西蒲原郡小中学校教頭会
会長 笠原 誠也
(燕市立燕西小学校)

本教頭会は、小学校16校、中学校6校、燕中等教育学校1校の23人で構成されている。燕市・弥彦村の子どもたちの健全育成を推進するために、教頭一人一人が各校でリーダーシップを発揮できるように、研修を充実させ、常に「学び」のある教頭会運営を行っている。

1 教育施策の確実な推進

年間11回行われる定例会の中で、燕市教育長から2回、弥彦村教育長から1回、燕市主幹から1回のご指導をいただいている。また、燕市指導主事からは、毎回施策説明を受けている。市村の教育施策をよく理解するとともに、教頭の職務について認識を新たにすることもできる機会となっている。弥彦村会場では、美術館の特設展の見学もさせていただき、教頭の生涯学習に資する学びも深めている。

2 事務職員とのパートナーシップの深化

夏季休業中に、事務職員との合同研修を実施している。事務職員と教頭が学校課題解決に向けてパートナーシップを深めることをねらいとして、各校から出された課題に対してファシリテーション形式で本音の意見を出し合っている。同じ仕事内容でもちょっとした工夫で効率が上がることに気付くこともあり、有意義な研修となっている。

3 職員の資質向上

「メンター・メンティー方式によるOJTにおける教頭の取組」が、本教頭会研修のメインテーマである。若手教員が、日々の学習指導や生徒指導における課題を解決するために、先輩教員からテクニックを伝授してもらったり悩みを聞いてもらったりする機会を教頭がどのように設定していくかということ、各校で実践している。細かいニーズにも対応でき、各校で実効性を高めている。その実践を持ち寄って分析・集約し、平成30年度新潟県小中学校教頭会中越ブロック研究大会、そして、平成31年度関東甲信越ブロック研究大会で発表する予定である。

都市教頭会ネットワーク



共に高め合う教頭会

佐渡市小学校教頭会
会長 本間 博 昭
(佐渡市立加茂小学校)

1 はじめに

佐渡市には小学校22校、中学校13校、特別支援学校1校、中等教育学校1校の計37校があります。教頭未配置校があるために、小学校教頭会は特別支援学校教頭を含めた22名、中学校教頭会は中等教育学校教頭を含めた13名で構成されています。

2 研修について

小学校教頭会は、年間に春季研修会、危機管理研修会、事務管理研修会、冬季研修会と4回研修会を開催しています。また、12月に中学校教頭会と合同の研修会を開催しています。昨年度までは、春季と小中合同研修会はブロックや県、関ブロ研究大会発表に向けた研修を行っていました。また、冬季研修会は、教育活動に関わりのある方から講演をいただいております。

本年度は、前会長の方針を受けて、年間を通して課題解決に向けた取組を行うことにしました。そこで「働き方改革」をテーマに、春季研修会では市小学校校長会会長様から学校現場の現状と課題、事務管理研修会には妹尾昌俊様をお招きして働き方改革における現状と課題についてご講演いただきました。それを基に個々に実践すべきことを決定し、冬季研修会で、その成果と課題を発表する予定です。

小中合同研修会では、来年度の関ブロ研究大会の発表に向けた取組を代表者が発表します。これについては、研修部長を中心に研修部会を開催して対応していきます。

3 終わりに

佐渡市の教頭の約半数は、市外から新任で赴任されています。知らない土地での一人職。赴任されたときは不安も大きいと思いますが、4月の小中合同教頭会総会・歓迎会の後は、縦と横のつながりが感じられます。市内外からの新進気鋭な方の赴任、小と中の2つの教頭会、教頭同士のつながりが広がることで教頭としての力量を高め合っています。



山紫水明の地で、つながりの深い教頭会を目指して

東蒲原郡小中学校教頭会
会長 高田 良 昭
(阿賀町立津川小学校)

東蒲原郡小中学校教頭会は、福島県に隣接する山紫水明の地、東蒲原郡阿賀町で活動しております。小学校7校、中学校3校、合計10校で組織されている小規模な教頭会です。

当教頭会は、お互いの顔が見え、つながりの深い教頭会を目指しています。少人数のよさを生かして様々な研修に取り組んでいます。毎月、町内各校を会場にして教頭会を行い、阿賀町教育委員会から御指導をいただいたり、研修・情報交換等を行ったりしています。また、毎年1回、地域の自然、文化、歴史を学ぶために町内4地区を持ち回りに地域巡検を行っています。さらに昨年度からは、町内の事務職員との合同研修会も実施し、財務管理等の事務能力の向上も目指しています。

今年度は、特に県小中学校教頭会ブロック別研究大会での発表に向けて毎回研修を行っています。研究課題「PTA及び地域社会に関する課題」に対して、当町の子どもたちの課題である社会性の育成を目指して以下のような取組を行っています。

- 町内の教職員と地域人材をつなぐための地域連携研修会の開催
- 地域における人材リストの作成
- 学校間交流活動の推進等

町教育委員会や下越教育事務所社会教育課からも御指導をいただきながら、会員全員で知恵を出し合って研修を進めています。

その他にも、町内各校長からの講話や全国教頭会、関ブロ大会、中央研修大会の参加者からの伝達講習や「危機管理の在り方」等の研修を行っています。

これらの研修を通して、会員各自の学校運営に関わる能力を引き出し、教頭会としての協働性を高め、教頭としての資質能力の向上を目指しています。

今後も、小規模の教頭会のよさを生かしながら、互いに声を掛け合い、深くつながる教頭会を目指して取り組んでいきたいと考えています。



ほっとする職員室

柏崎市立高柳小学校

渡邊 興 勝

豊かな自然に囲まれ、歴史と文化が息づく高柳小学校に赴任して、半年が経ちました。全校児童13名という極小規模校であり、家族のような一体感を感じながら充実した毎日を過ごしています。

教職員が少ないため、一人一人の校務分掌は多岐にわたります。学級担任の仕事、行事の計画・運営、生活指導、校内研究、課外活動……。頭を切り替えながら段取りよく仕事を進める職員に頭が下がります。

私は、頑張っている職員が働きやすく、やりがいを感じられる職場環境作りを進めたいと考えています。そのためには業務の見直しや改善等必要なことも多いのですが、まずは「お疲れ様でした」と笑顔で職員を迎えることを心掛けています。

明るい会話が飛び交う、ほっとする職員室で教職員の和を深め、一体感をもってよりよい学校を一緒に作っていきます。



「響き合う学校」 のために

長岡市立旭岡中学校

有本 勝 彦

4月から勤務している旭岡中学校は「響き合う学校」が校風です。挨拶や歌声が響き、生徒同士・生徒と教職員との心と心が響き合う学校でありたいと日々励んでいます。

この校風のもと、生徒や教職員が生き生きと活動できるよう、教頭は全てに目配りと気配りをして調整を図り、ときには一早く危機や危険を察知して未然に防ぐなど、非常に責任の重い立場を担っていることを、肌を通して実感しています。

まだまだ未熟な私です。生徒や教職員が安心して活動に専念できる環境を整備するのに奮闘努力の日々が続きますが、生徒が笑顔で安心して「響き合う学校」で学ぶ、そのために精一杯、力を尽くしていこうと思います。よろしくお願いいたします。



「笑顔あふれる学校」 を目指して!

三条市立第二中学校

岡田 純

教頭として着任した日、以前お世話になった先輩からいただいた、愛情あふれる激励のはがきに「温かい雰囲気たっぷりの職員室にしてください。」とありました。職員室に戻ってきた職員がホッとできる場であること。それは生徒へ接するとき、気持ちに余裕をもち、寄り添っていくことにつながる。先生方の笑顔が、子どもたちの笑顔につながっていくのだと考え、そんな職員室を目標としました。5か月が過ぎた現在、果たしてそのような雰囲気をつくり出しているのか。目の前の仕事を処理することで精一杯であったと反省しています。

2学期からは、職員一人が悩みを抱え込まず、気軽に相談できるような職員室を目指し、職員一人一人の声をしっかりと心に刻み、自己研鑽に努めます。そして、教職員、生徒の笑顔があふれる学校を目指し日々努力していきます。よろしくお祈いします。



「はい、教頭です。」

魚沼市立広神東小学校

関矢 麗 子

「教頭先生、お電話です」と呼ばれても、自分のことだと気付かない。次々と来る提出文書や対外的な文書に、事務主任と校長に数分おきに教えを請い、必死にPCやファイルに向かう日々だった。顔をあげて、職員室を見渡して、職員の表情や動きを見て、仕事の振分けや進み具合を確認して、校長を助け…、なんて理想の姿。前任教頭の仕事や学校のシステムの理解ができるまでは、必死だった。

しかし、困り感のある児童・保護者のこと、地域との連携に関すること、共に進もうとするPTAとのつながりなど、職員や地域の方との対話が増えていくことで少しずつ自分を取り戻し、教頭としての言動が考えられるようになってきた。

今まで仕えてきた素晴らしい教頭先生方の背中を追い、まねをし、私も自信をもって「はい、教頭です」と言えるよう研鑽を積んでいきたい。



架け橋として

南魚沼市立三用小学校

山田 豊

雪深い魚沼の地にも春の息吹が感じられる4月。「どんな学校かな?」「どんな地域だろう?」新任教頭として不安ばかりを抱えての初出勤でした。

実際の職務も、初日から様々な提出文書の作成、またPTA関係の業務等、今までに経験したことのない仕事に追われ、四苦八苦する日々が続きました。

そんな私を助けてくれたのは、校長先生をはじめ教職員、保護者、地域の方々です。おかげで、何とか今まで勤めることができました。本当にたくさんの人の優しさに救われた1学期でした。

2学期に、当校は道徳の研究会があります。また、文化祭やマラソン大会等の行事もあります。多忙化が予想されますが、子どもたちの成長の機会として学校と保護者、地域が一体となり取り組んでいきます。私は、その実現のために教頭として、学校と保護者、地域の架け橋として尽力していきます。



最後の1ページの重みを感じながら…

村上市立神納小学校

小池 満喜子

「子ども、保護者、地域の方々が、いかに気持ちよく統合できるようにするかが大事!」前任の教頭先生が言った言葉が、重く心にのしかかる。1学期を終え、果たしてどれだけこの言葉の意味を知ろうと努力しただろうか、どれだけその日を迎える準備に心を砕いただろうか・・・自問自答してみたものの猛省すべき点しか思い浮かばない。

来年度で閉校を迎える神納小学校。子どもや保護者、地域の方々の寂しさや統合に寄せる期待など様々な思いを十分に受け止め、歴史ある学校の最後の1ページを締めくくるといふ大事な仕事。それを成し遂げるため、今以上に子どもと保護者との関わりを深め、子どもの活動とともに地域のよさを語るができる教頭を目指す。地域の方々の温かさや優しさに触れることができる幸せと感謝の気持ちを忘れずに、精一杯職責を果たしていきたい。



子どもの笑顔、職員の笑顔があふれる学校に

新発田市立住吉小学校

冨 樫 晃

教頭職となり早4か月が過ぎました。その中で自分なりに大切にしてきたことは、「職員とのつながり」です。学校規模も大きく、職員数も多いです。それでも、全職員と1日に1回は言葉を交わすことを意識しています。その目的として自分なりに考えているのが、

①校長の示す学校経営方針の浸透と方向性の共有
②職員室の雰囲気づくりと職員との信頼関係構築です。教頭として、職員とのコミュニケーションを密にし、互いのよさを認め合い協力する職員集団にするためのパイプ役になろうと思っています。それが教育を充実させ、職員の職務へのやりがいの一助になればと思い、意識して継続しています。

子どもの笑顔、そして職員の笑顔があふれ、保護者や地域の皆様から信頼される学校づくりに取り組んでいきます。どうぞよろしく願いいたします。



「佐渡学・キャリア教育の充実をめざして」

佐渡市立佐和田中学校

岸本 政和

私自身、初めての中学校勤務と、初めての単身赴任ということで、不安と緊張の毎日でしたが、校長をはじめ、諸先生方に支えられ、無事1学期を終えることができました。

佐渡市に赴任して感じたことの一つに、佐渡学・キャリア教育に多大な力を注いでいることが挙げられます。

当校でも、13職種の方を講師に招いた職業・生き方講座「キャリアセミナー」を開催したり、佐渡市が推進する課題解決型職場体験を実施したりして力を入れています。

私は宮崎県の出身で自宅は新発田市です。「自分の郷土を愛する心があればどこでも生きていける」と自負しています。佐渡をこよなく愛し、それぞれの人生で活躍していくことのできる子どもの育成を目指し、今後も尽力してまいります。

随 想



教頭職に欠かせないもの

小千谷市立和泉小学校

小 栗 正 直

教頭職を務めていくには、健康、調整能力、情報収集が欠かせないと私は考えている。これまでの自分の実践や経験を紹介したい。

1 何よりも健康

- 起床時から就寝時まで、1万歩を目標としている。
- これまでの献血回数は55回である。健康確認のため、年に2～3回、400ml献血に挑戦している。
- 毎年4月29日に開催される信濃川河岸段丘ウォークには、ゼッケンNo.1で参加している。年齢は毎年増えるものの、所要時間は毎年短縮している。また、市主催の健康祭りの体力測定では、実年齢より10才若いという判定に満足している。

2 調整能力

職員からの相談事には、その場で判断し、納得できるような解決方法を考える。自分で判断できない件は、すぐに校長に相談し指示を受ける。保護者や地域住民からの相談や依頼には即対応する。

そのためには、過去の対応事例やこれまでの経験を多くもっておくことが欠かせない。疑問や困ったことを解決し、にこやかな顔で席へ戻っていく職員の顔を見ることは、自分のエネルギーにもなる。

事務処理対応では、「学校事務の手引き」「学校の管理運営」で確認したり、当校の主査の力を借りたりしている。

3 情報収集

- 5時半に起床して、新聞の全ページに目を通す。
- 市内の教頭会研修会では、情報交換の時間を設定し、諸問題の対応について確認し合っている。年2回、普段の労を互いにねぎらい、充実した情報交換を行っている。
- 自分自身の知識を高めるため、毎年1資格取得を目指している。実生活で役立っているのは、縄文楽検定、漢字検定、小千谷検定、ラジオ体操指導者、アマチュア無線、防災士等である。



部活動は部活道

胎内市立乙中学校

丸 山 久 志

「苦しさ」の3つの法則

- 1 苦しさは、戦えば戦うほど大きくなる
- 2 苦しさは、逃げて追いかけてくる
- 3 苦しさは、必ずいつかは喜びに変わる

先日、教育実習を終えた学生が、部活動の先輩として、悩み苦しんでいる後輩のキャプテンのために書いた言葉です。心を動かされ、この学生への尊敬の念を深めるとともに、モントリオールオリンピック体操男子団体金メダリストの五十嵐久人先生が体操部の卒業生に「喜びは頂になく、その途中にある」という趣旨の言葉を贈られていたことを思い出しました。

乙中学校には野球部とバレーボール部に、外部指導者がいます。お二人とも昨年までは同僚として乙中学校に勤務していました。お一人は退職され、もうお一人は転勤されましたが、お二人とも保護者のたつての願いで、顧問をしていた部活動の外部指導者として継続して指導をしてくださっています。愛情に裏打ちされた厳しい指導は生徒の心を磨き、部活動における規律の正しさ、自分たちで決めたことを成し遂げる連帯感・責任感の強さが、日常の学習規律や相手を思いやる心につながっています。おかげで、部活動の成績や体力はもちろん、学力も高く、生徒指導的にも大変落ち着いた学校となっています。お二人の、畑仕事をされながら複数のチームの指導をされている姿、勤務後の貴重な時間や休日を返上で指導されている姿を見ると、生徒や保護者はもちろん、私たち職員も感謝の気持ちでいっぱいになります。

スポーツや部活動をとおして心を磨く、続けていけば、人生の大切なことを学ぶ道がそこにはあります。働き方改革が叫ばれ、部活動のあり方も変わっていきますが、技とともに心を入れることも大切にしていきたいと思えます。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotokai@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
http://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/